SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

静岡県庵原郡両河内村南部の地質

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-08-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 寺田, 貞治 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00005968

静岡県庵原郡両河内村南部の地質

四年　寺田貞治

昭和３０年度卒業論文の一つとして静岡県庵原郡両河村南部の地質を研究したので、ここにその要約を報告する。

調査区域は西の龍爪山（１０４１m）と東の高根山（５０３.９m）とで挾まれた両河内村南部一帯の地域である。調査期間は１９５５年３月～８月にわたり延２５日の踏査を行つた。この地域の地質については故大塚彌之助博士を始め伊田一善氏その他の祥しい調査がある。

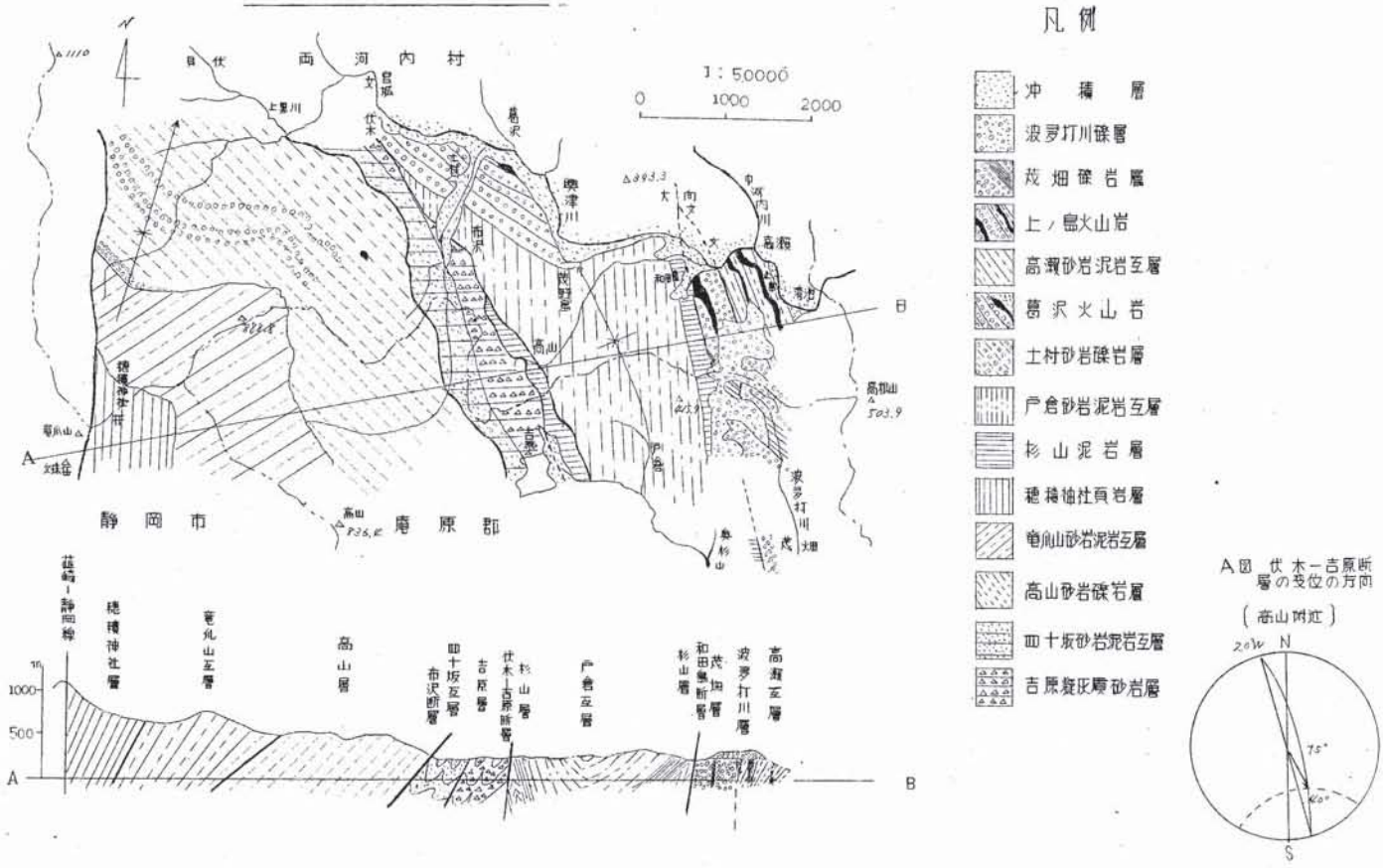
本地域はほぼ南北走行の山地で壮年期の地形を呈し、殊にフオツサ・マグナ南西部に当り、所謂、糸魚崎一静岡地質構造線に平行な幾つかの逆断層が南北に走つており、この影響が地形にもよく現われている。

本地域には中新世から鮮新世初期にわたる地向斜性の堆積物が厚く分布している。この堆積物は下部より静岡層群・和田島層群・清見寺層群に大別せられ、互に逆断層で接し、何れも砂岩・岩或は泥岩の岩相上よく似た地層より成る。

静岡層群は本地域の西半に分布し、その下部は伏木一吉原断層で和田島断群と接し、上部は糸魚崎一静岡構造線で龍爪山のアルカリ岩に接する。その層厚は３０００m以上に達し、下部より吉原凝灰質砂岩層・四十坂砂岩泥互層・高山砂岩礫岩層・龍爪山砂岩泥岩互層・穂積神社頁岩層に区分できる。これらの地層はすべて整合かつ漸移的であるが、四十坂層と高山層との間には地層とほぼ平行な断層が走つており、明瞭な断層崖を作つている。吉原層と四十坂互層は著しい層内褶曲が見られる。一般に下部ほど凝灰質で長石・輝石・角閃石の結晶を含み緑泥石化が著しく、白脈が多くてこの脈で崩壊し易い。この凝灰質岩は粗粒砂岩で、高山層上部で非凝灰質な細礫岩に移る。なお高山層の北部にはやや大形の礫を含む礫岩層を介在する。龍爪山互層は葉理が極めて明瞭で、上部は黒色の穂積神社層に移化する。

和田島層群は本地域東半に南北軸の向斜構造をなして分布し、その西翼は伏木一吉原断層で静岡層群と接し、東翼は和田島断層で清見寺層群に接する。層厚は本地域のみで１２００m以上あり、下部より杉山泥岩層・戸倉砂岩泥岩互層、土村砂岩礫岩層に区分したが、何れも整合かつ漸移的である、杉山層は南に発達し本地域では向斜の両端にうすく現われるのみである。戸倉互層は非凝灰質な砂岩のやや厚い互層で、北にいくにつれ粗粒となり土村層に移る。土村層には含普通輝石角閃石安山岩の岩脈が見られる。この安山岩は恐らく葛沢火山岩に関係のあるものと考えられる。

両河内村南部の地質略図



清見寺層群は和田島断層によつて和田島層群と境され本地域ではその一部が東端に少し分布するのみで殆んど礫岩より成る。この礫岩の層を茂畑礫岩層とよび、大部分中礫で、砂岩頁岩、閃緑岩の礫が多い。この茂畑層は一部泥岩を介在し下部の高瀬砂岩泥岩互層に漸移する。この漸移部分に含角閃複輝石安山岩の岩脈が見られる。この安山岩を上ノ島火山岩とよび、走行にそつてほゞ垂直に貫入した3つの岩脈より成る。

茂畑礫岩層と杉山泥岩層の上に不整合に固結程度の低い礫層が載り、層厚は100m内外で南北に細長く分布している。この層を波多打川礫層とよび、大礫～中礫より成り、礫質はこの地域の西北方の地層に由来する砂岩・頁岩・閃緑岩・石英斑岩などである。

本地域の地質構造については既に多くの人々によつて論じられている様に、南北性の逆断層によつて西から東に衝上した如き複雑な一種の覆瓦構造をなしている。逆断層の傾斜は40°W～90°Wである。静岡層群は南では走行がほぼ南北で傾斜はほぼ45°W内外の単斜構造をなすが北に行くにつれ東西性となり傾斜も大となつて遂に伏木より南々東にのびた線で折れ曲がり、逆転してそのまま鷲爪山一貝伏の線を向斜軸として北に傾斜する向斜構造をなす。和田島層群は北に傾く向斜軸をもつ非対称向斜構造をなし、背斜部は逆断層に移化して失われている。向斜軸は茂野島、戸倉を通り断層にほぼ平行で、その東翼はN30°E 30°～40°W、西翼はN70°W：60°～90°Nの走向斜斜を示す。清見寺層群は上記二層群に比べて極めて簡単で、走行N30°Wの西に傾く単斜構造をなす。

蒲崎一静岡構造線は本地域ではアルカリ岩の岩層を被つているためか、はつきり認めることが出来なかつた。この構造線よりむしろ顕著な破砕帯を伴う伏木一吉原断層（A図）に意味があると思われ、この両側の地層の褶曲構造の特性に違いが認められる。即ち、静岡層群は主として中新世末の大井川褶曲運動による褶曲構造を示し、和田島層群及び清見寺層群は鮮新世以後の瑞穂一フオツサ・マグナ褶曲運動による褶曲構造を示している様に考えられる。この意味から、従来、蒲崎一静岡構造線の延長と考えられている鷲爪山東麓の断層よりも伏木一吉原断層の方がこの地域の地質構造に対して、より大きな意義をもつているものと思われる。

化石は本地域では産出が乏しく、僅かの植物破片と小型有孔虫の他、吉原に於いて高山層の粗粒砂岩よりChlamys sp、を発見したのみで、化石による対比は困難であつた。しかし、岩相及び堆積状態から波多打川礫層は久能山礫層に対比出来る。何れにせよ本地域は中新世から洪積世までの地層が分布していることは確かである。